



正しく知ろう認知症

認 知症サポーター養成講座が大石田中学校で1年生55人を対象に11月17日(金)に行われました。これは中学生に認知症について正しく理解してもらい、地域や家庭において認知症の人を温かく見守ってもらうことを目的に町と地域包括支援センターが実施したものです。

講座は地域包括支援センターの関智恵子さんが講師となり、認知症が脳の病気であることや、認知症の症状、接し方などを説明しました。その後、生徒が認知症の高齢者とその孫の役に分かれてロールプレイングが行われ、認知症の方への正しい接し方を学びました。関さんは「認知症について考えることが第一歩です。認知症サポーターとして本人やその家族を温かく見守ってほしい」と話していました。

絶対やめよう！飲酒運転

冬 の交通安全県民運動の一環として12月1日(金)に飲酒運転の撲滅を呼びかける飲食店訪問が町内の飲食店29店舗で行われました。これは尾花沢地区交通安全協会と安全運転管理者協議会が毎年この時期に実施しているもので、啓発用のポケットティッシュやトイレトペーパーを配りながら店主に、飲酒せずに運転する人をあらかじめ決めておくハンドルキーパー運動の徹底などを呼びかけました。

年末年始はお酒を飲む機会が特に多くなる時期です。「飲んだら乗らない」、「乗るなら飲まない」を家族や周囲の方と呼びかけあって、飲酒運転は絶対にしないよう徹底しましょう。



親子で楽しむ子育てフォーラム

子 育てびよんびよんフォーラムin大石田が、11月19日(日)に町民交流センター「虹のプラザ」中会議室で行われました。このイベントは子育てサークル「小さなおもちゃはこの会」が主催して毎年行われているものです。イベントには町内外の親子約100名が参加して午前の部ではケーキの紙工作を楽しみました。

また、午後の部では児童書作家の杉山亮さんの「ものがたりライブ」とパフォーマーの池田洋さんによるパントマイムショーが行われました。池田さんのショーでは綿密に考えられたからくりのような動き、はじめて見る生のステージの迫力に子どもたちからしきりに歓声が上がっていました。



オリンピック選手と交流

ア テネ・北京オリンピックのフェンシング日本代表として活躍した池田めぐみさん(南陽市、山形県体育協会スポーツ指導員)による課外授業が大石田北小学校で11月21日(火)に行われ5・6年生の児童32名がフェンシングやレクリエーションを楽しみました。はじめに2人の児童がフェンシングを体験。初めて持つ剣に戸惑いながらも池田さんとの対戦を楽しみました。

つづいて行われたレクリエーションでは、児童が一列に手をつなぎ協力して前へ進む「だるまさんがころんだ」などを楽しみました。池田さんは「心をつなげて協力すると大きな力が出る。この気持ちを忘れないでほしい」と話していました。



手作りのしめ飾り作り

お 正月のしめ飾りを作る大石田町総合体験活動事業が12月16日(土)に町民交流センター「虹のプラザ」中会議室で開催され、町内の小学生9名が参加して新年のしめ飾り作りを体験しました。これは町教育委員会と放課後子ども総合プラン運営委員会の主催で行われたもので、鷹巣地区の有志3人(星川一義さん、村岡真也さん、鈴木善巧さん)が指導にあたりました。

参加者は藁の束をねじって縄を作る「縄ない」など慣れない作業の連続に戸惑いながらも真剣に取り組み、手作りのしめ飾りを作りました。参加者は「玄関に飾っていい年を迎えたい」と話していました。

大石田のそばを満喫

そ ばをテーマに町おこしに取り組む若者団体「大石田にぎりばっと部(高橋陽介部長)が主催する「大石田そばシリーズ」のそば打ち・にぎりばっと体験が12月10日(日)に町民交流センター「虹のプラザ」調理室で行われました。大石田そばシリーズは参加者がそばの種まきや刈り取り体験など年間を通して大石田のそばを楽しむイベントで、この日は町内外からの参加者と北村山高校家庭クラブ「そばガールズ」のメンバーなど35人が「大石田そば道楽の会」の井上邦義さんと齊藤利雄さんの指導を受けながらそば打ちを体験しました。その後、そばがきを1口大にぎって茹でる「にぎりばっと」作りも体験し、参加者らは自分で作ったそばをおいしそうに味わっていました。

